

3-2 意識調査（事前調査）の結果

（１）回答母集団の特性

回答者の年代別性別を表 3-2-1 に示す。

男女別でみると、昨年同様に男性 1 に対し女性 3 の割合となっている。ただし、学生が中心となる 25 歳以下ではほぼ男女同数の割合となっている。

年代層でみると、こちらも昨年同様の分布構成となっている。もっとも多いのが 60 歳代の 22% で、それに比べ 20 歳代・30 歳代が少なめになっている。これは大多数がスーパー店舗での回答者であり、スーパーの来店者年代構成を反映しているものと考えられる。

また、家族構成等を表 3-2-2 に示す。

家族構成でみると、訴求チャンネルを広げた効果として、「一人住まいの若者」が約 10% となり、「一人暮らしの高齢者」よりも僅かに構成比率では多くなっている。

「働く男女」は全体の約 40% を占めている。また夫婦（子供と一緒に）・二世帯も全体の約 40% を占めるが、そのうち小さな子供がいると思われる 20 歳代～40 歳代の回答者は約 300 人（全体の約 20%）となっている。

表3-2-1 回答者の年代別性別（単位：名）

区 分		男性	女性	男女計	参考 平成26年度活動
～20歳		63	57	120 7.5%	—
20歳代	前半	51	61	171 10.7%	11%
	後半	11	48		
30歳代		36	151	187 11.7%	15%
40歳代		45	215	260 16.1%	17%
50歳代		46	205	251 15.6%	17%
60歳代		96	261	357 22.2%	24%
70歳～		84	158	242 15.1%	16%
年齢無回答		1	13	14 0.9%	
上 記 計		433 27.0%	1,169 72.8%	1,602 99.8%	男性24% 女性76%
年齢・性別 無回答		3 0.2%			
合 計		1,605 100%			1,245

表3-2-2 回答者の年代別構成（単位：名）

区 分		一人暮らしの若者		働く男女		子育て・プレママ		一人暮らしの高齢者	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
～20歳		52	34	1	2	4	5		
20歳代	前半	39	28	4	13	3	13		
	後半			9	29	2	28		
30歳代				33	72	17	111		
40歳代				42	121	26	129		
50歳代				41	111	19	95		
60歳代				46	70	30	82	17	41
70歳～				9	14	21	32	12	52
年齢無回答							2		
上 記 計		91	62	185	432	122	497	29	93
合 計 (構成率%)		153 9.5%		617 38.4%		619 38.6%		122 7.6%	

注）区分の「子育て・プレママ」は、夫婦（子供と一緒に）・二世帯と回答した人

(2) 意識調査結果

調査結果の概要及び詳細は、表 3-2-3、図 3-2-1 のとおりである。

約 1,600 人の回答者のうち 7 割以上が「食生活や食育について話し合っている」と答えるなど、回答全体としては食育への関心・理解が一定程度浸透している傾向が分かる。ただし野菜摂取については、目安量に達しているのは 5%程度で、野菜の摂取不足の傾向は従前と変わってはいない。

一方 20 歳未満の回答者では食育への関心が約 4 割など、多くの回答で意識や食生活実態が低調な傾向にある。

食育活動への要望については、「水産系」「農業系」「講習会」についての要望が多く、告知方法としては店内への「張り出し・折込チラシへの掲載希望」が圧倒的に多かった。

表 3-2-3 調査結果の概要

食に対する意識・状況	
設 問	全体の回答状況 () は 20 歳未満の結果
問 1. 家族で食育について話をするか	よく話す：24%、まあまあ話す：48% (よく話す：8%、まあまあ話す：33%)
問 2. 食事や栄養に気を付けているか	いつも気を付ける：42%、ときどき気を付ける：49% (いつも気を付ける：18%、ときどき気を付ける：56%)
問 3. 主菜・副菜のそろった食事回数	2 回/日以上：45%、1 回/日：31% (2 回/日以上：32%、1 回/日：26%)
問 4. あなたの野菜摂取量 (目安量は小鉢 5 皿＝350g/日)	1～2 皿/日：61%、3～4 皿/日：26%、5～6 皿/日：5% (1～2 皿/日：55%、3～4 皿/日：19%、5～6 皿/日：3%)
問 5. 「日本型食生活」を知っていたか	内容を含め知っている：21%、聞いたことがある：39% (内容を含め知っている：6%、聞いたことがある：28%)
問 6. 「日本型食生活」を実践しているか	実践している：9%、概ね実践している：53% (実践している：2%、概ね実践している：32%)
問 7. 食育に関心はあるか	非常に関心がある：27%、どちらかといえば関心：60% (非常に関心がある：16%、どちらかといえば関心：46%)
問 8. どのような取り組みが必要か	①栄養バランスの改善、②食習慣の改善、③肥満改善、の順 (①栄養バランスの改善、②食習慣の改善、③食べ残しの減少、の順)
問 9. 参加したい「食育」の催し	①料理教室、②工場・施設見学、③安全表示講習会、の順 (①料理教室、②現場体験、③和食文化講習会、の順)
現場体験について	
設 問	回答状況
問 10. メニュー案への関心	①水産系、①農業系・・・ほぼ同数。それよりも僅かに少ないのが③店舗の講習会(20 歳未満の回答も同様)
水産系への関心	東しゃこたん、きたひやま、寿都・・・が多い (東しゃこたん、きたひやま、北るもい・・・が多い)
農業系への関心	ニセコ、仁木・七飯、加工場・・・が多い (20 歳未満の回答も同様)
店舗での講習会への関心	そば打ち、栄養バランス、豆腐屋さん、料理教室・・・が多い (20 歳未満の回答もほぼ同様)
問 11. 個別要望	省略
問 12. 参加の意思	是非参加したい：22%、内容と当日の都合による：62% (ぜひ参加したい：11%、内容と当日の都合による：63%)
問 13. 開催日への希望	平日開催：24%、土日開催：30%、夏休み：15% (平日開催：3%、土日開催：25%、夏休み：46%)
問 14. 実施内容の告知方法	圧倒的に「店舗での張り紙・折込チラシ」 (張り紙・折込チラシが多い。声掛け・HP 掲載も)
問 15. 回答者について	①性別・年齢：表 3-2-1 に掲載 ②居住者構成：表 3-2-2 に掲載 ③専業主婦 27%、全日勤 19%、パート 17%、学生 13%

回答者の食事や食育への関心度を、年代別・男女別・家族構成別に把握するため、表 3-2-4 のように整理した。

食事に気をつけている人・食育への関心の高い人を年代別・男女別に見てみると、20 歳代以下の割合が低く、また女性よりも男性が低い傾向にあった。

また 30 歳代～50 歳代までの男性も低い傾向にあり、定年を迎える 60 歳代から急に増加することから、働く世代の関心が低い傾向にあると推定される。

表3-2-4 年代別の食事・食育への関心度

上段は人数、下段は各年代の総人数に対する割合

枠内の黄色箇所は、平均値（縦系）を下回っている

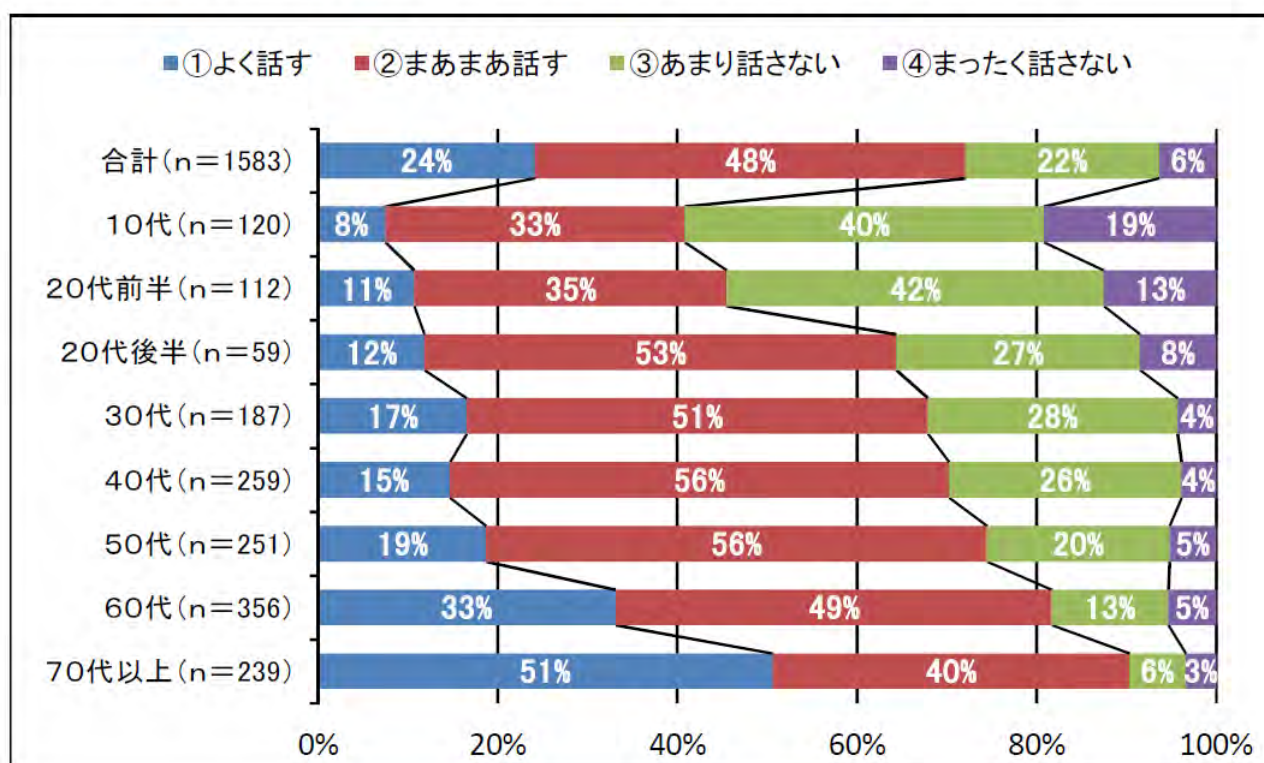
区 分		食事に気をつけている人			食育への関心が高い人		
		男性	女性	男女計	男性	女性	男女計
～20歳		43 68.3%	45 78.9%	88 73.3%	33 52.4%	41 71.9%	74 61.6%
20歳代	前半	34 66.7%	50 82.0%	84 75.0%	34 66.7%	49 80.3%	83 74.1%
	後半	6 54.5%	42 87.5%	48 81.4%	9 81.8%	43 89.6%	52 88.1%
30歳代		29 80.6%	142 94.0%	171 91.4%	27 75.0%	138 91.4%	165 88.2%
40歳代		35 77.8%	202 94.0%	237 91.2%	32 71.1%	191 88.8%	223 85.8%
50歳代		38 82.6%	197 96.1%	235 93.6%	31 67.4%	186 90.7%	217 86.5%
60歳代		87 90.6%	255 97.7%	342 95.8%	84 87.5%	242 92.7%	326 91.3%
70歳～		81 96.4%	155 98.1%	236 97.5%	79 94.0%	156 98.7%	235 97.1%
上 記 計 (平均)		353 81.7%	1,088 94.1%	1,441 90.7%	329 76.2%	1,046 90.5%	1,375 86.6%

注) 「食事に気をつけている人」とは、問2において「いつも気をつけている」「ときどき気をつけている」と回答した人

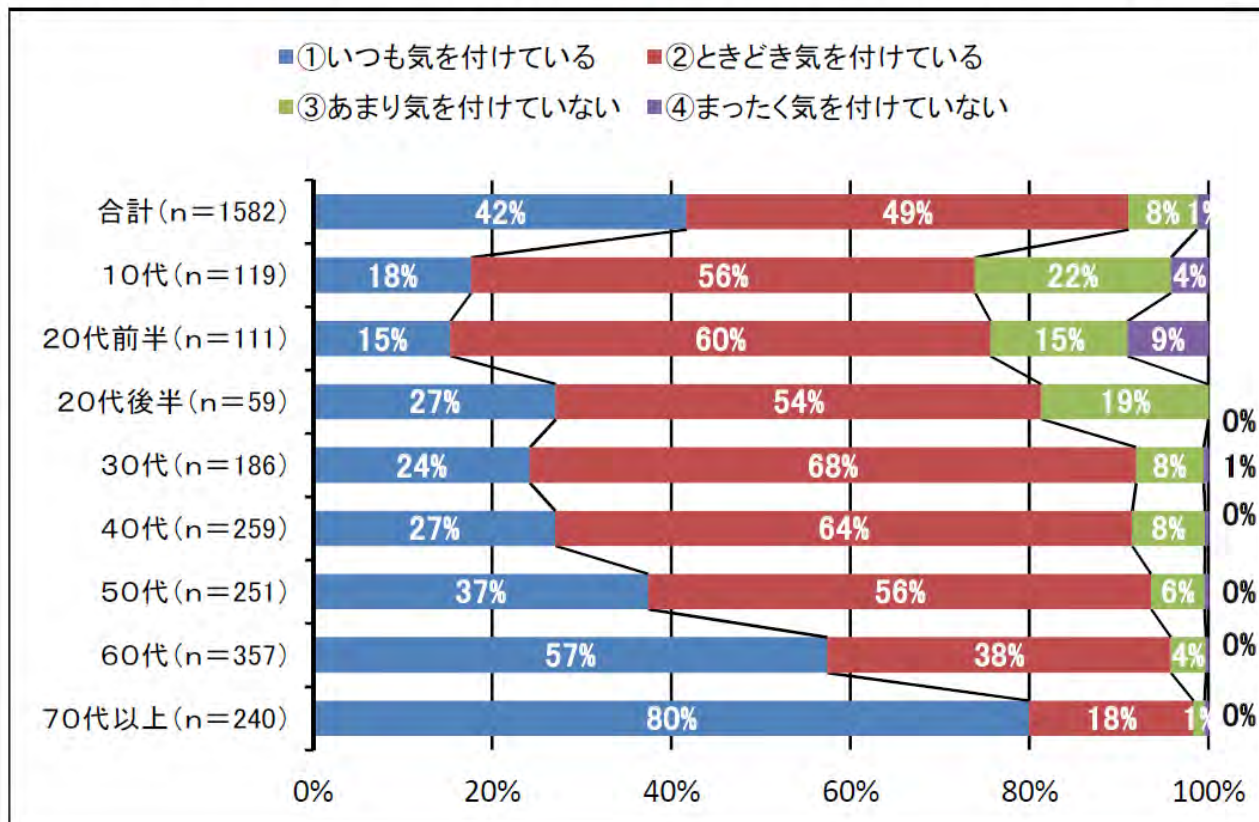
「食育への関心が高い人」とは、問7において「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人

図3-2-1 調査結果

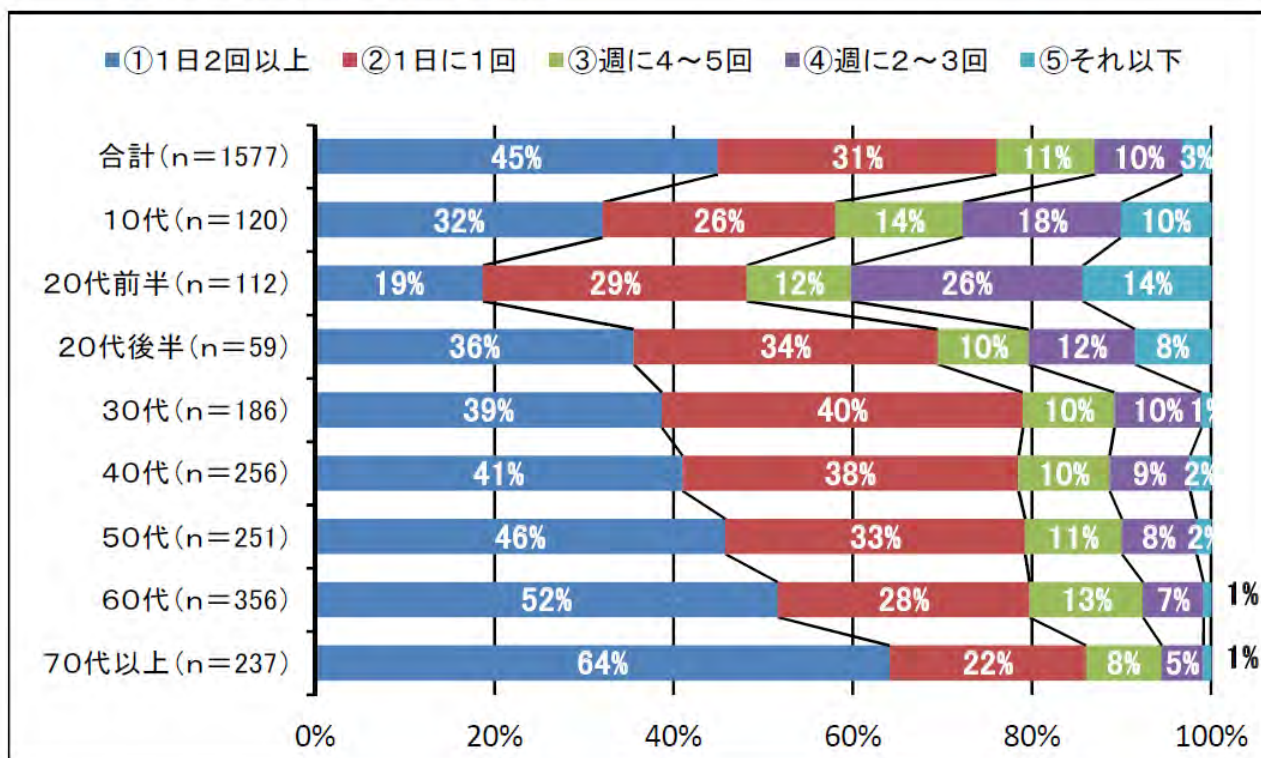
問1. ご家族で食生活や食育について、話し合うことはありますか。(〇は1つ)



問2. あなたは健康のために栄養や食事について実際に気を付けていますか。(〇は1つ)

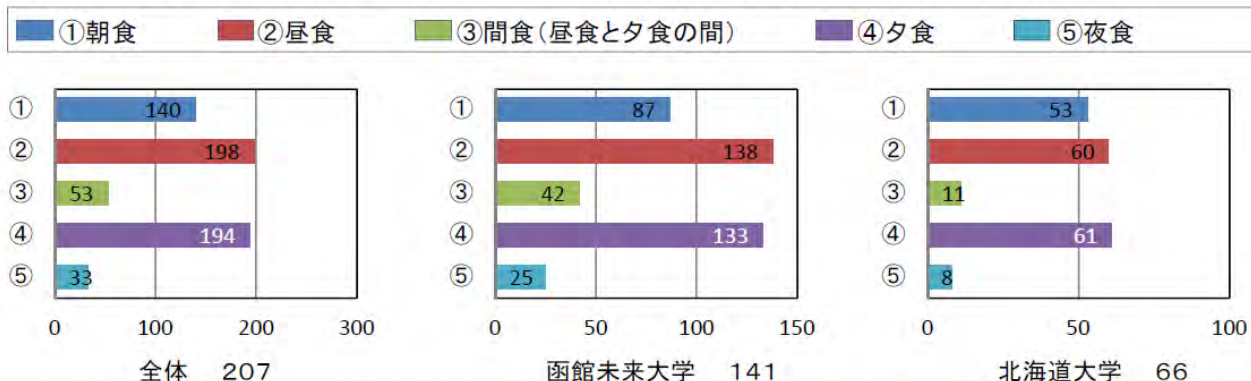


問3. 1日のうち、主食(ごはん、パン、めん類など)・主菜(卵、肉、魚、大豆・大豆製品等が主体のおかず)・副菜(野菜、海藻、いも類等が主体のおかず)のそろった食事をどのくらいとっていますか。

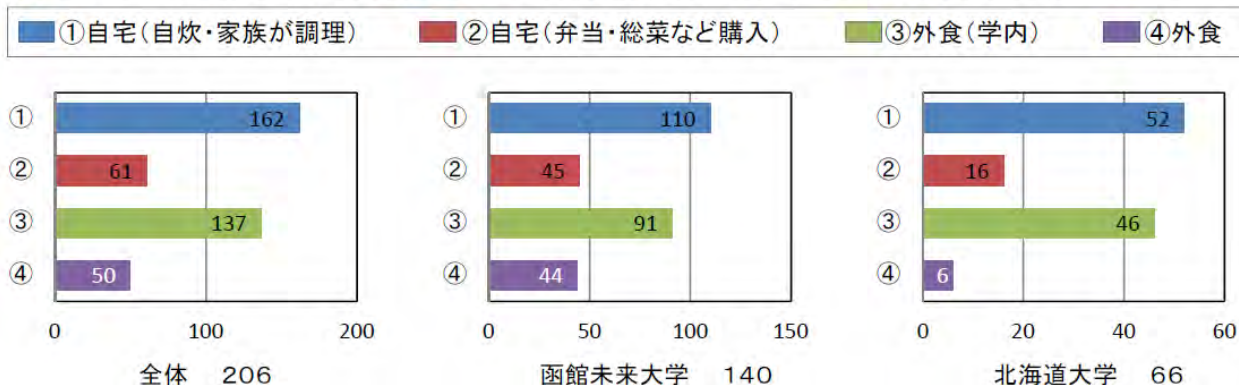


問3-1、問3-2の設問は、大学での調査のみ実施

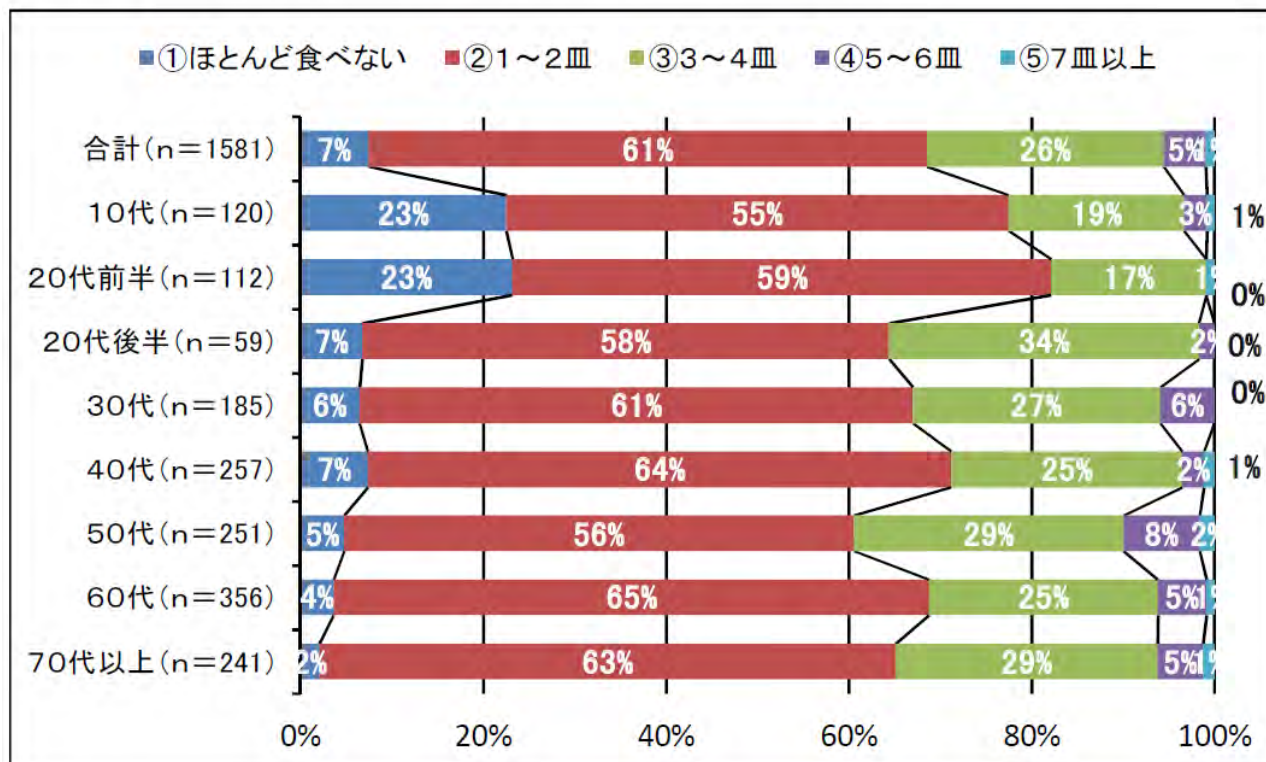
問3-1. この1週間の平均的な食事では、1日平均何食摂っていますか。(〇はあてはまるものすべて)



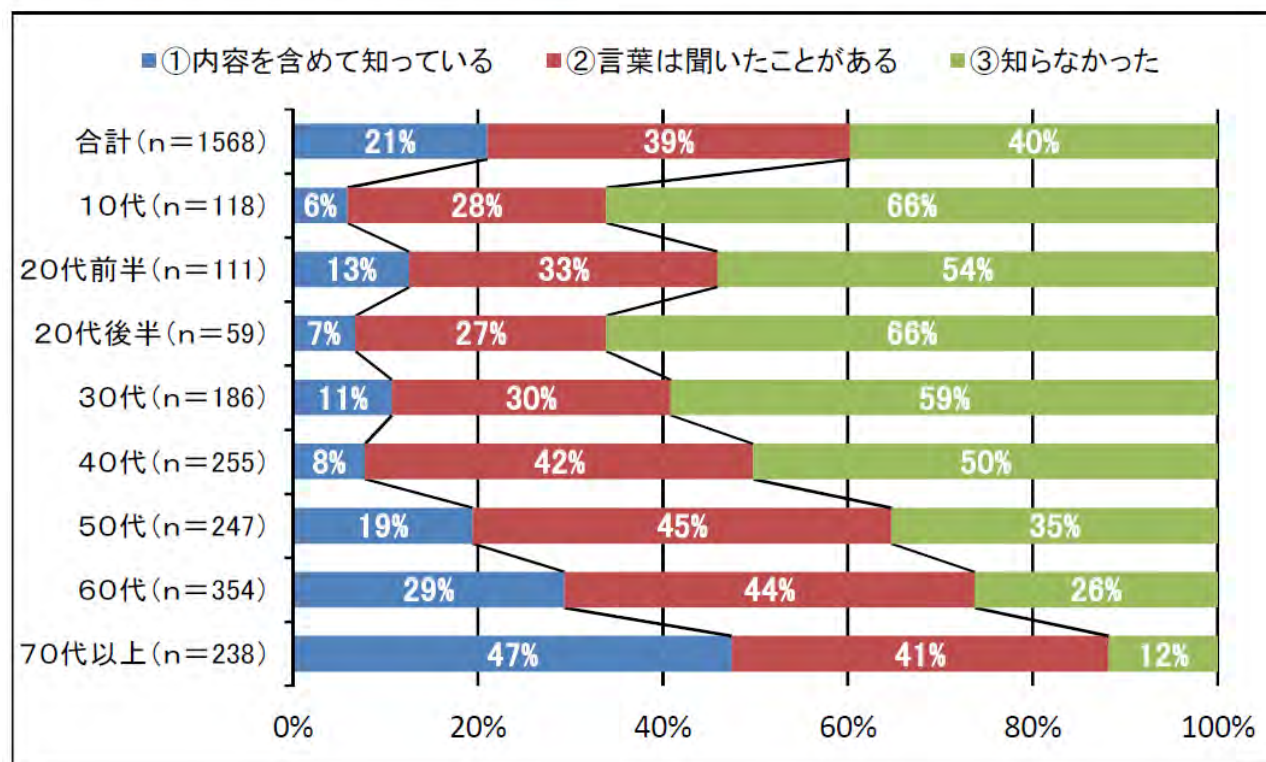
問3-2. この1週間の平均的な食事では、どこで食事を摂っていますか。(〇はあてはまるものすべて)



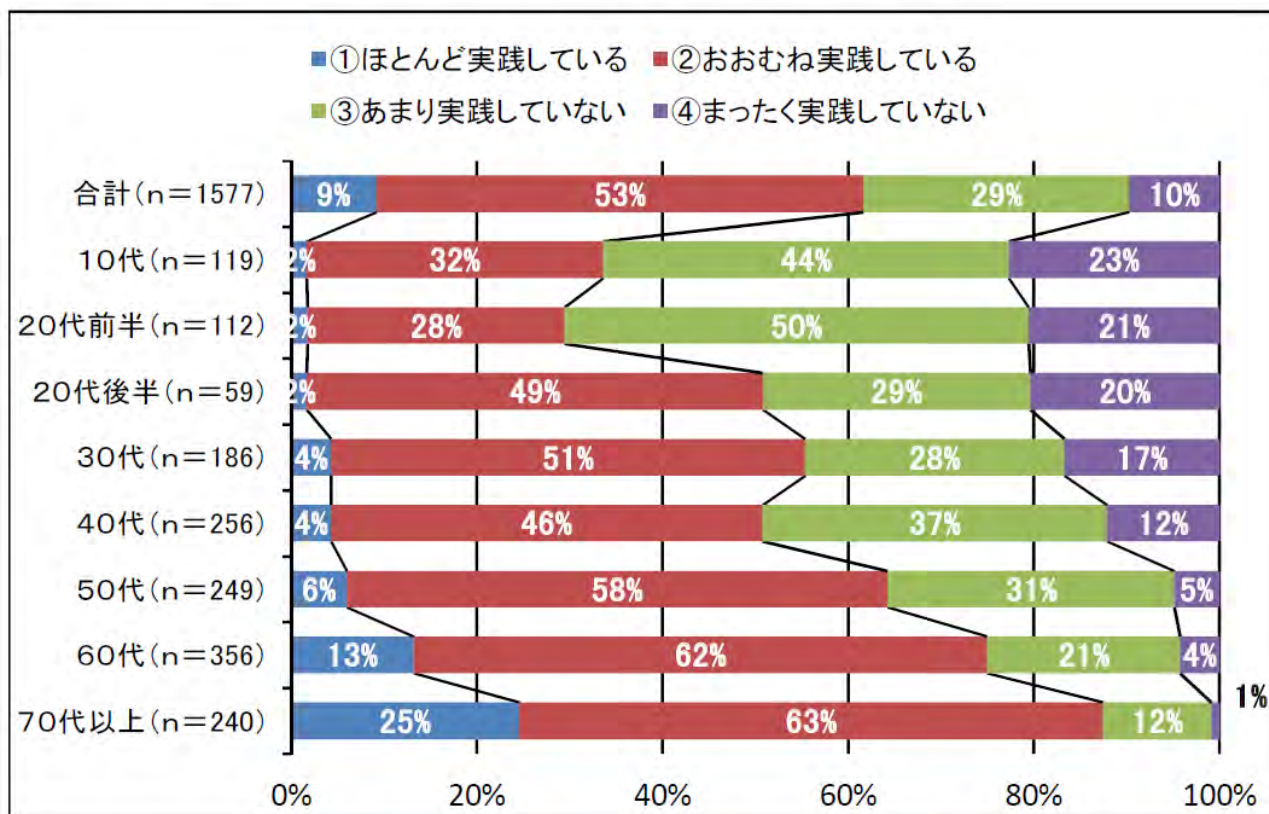
問4. (別紙を参考に)健康増進の観点から1日350g以上の野菜を食べることを目標にしています(小鉢で5皿)。あなたは普段、1日に野菜料理を小鉢換算で何皿食べていますか。



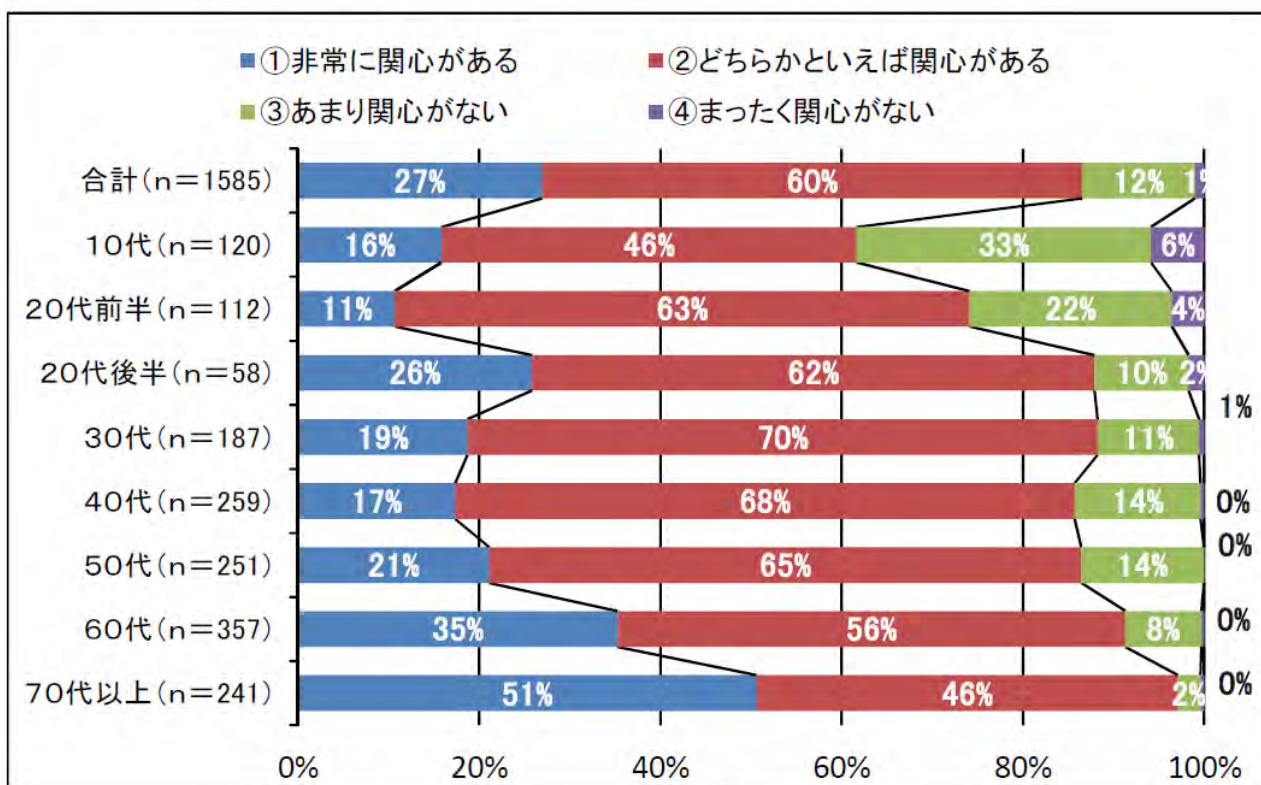
※以下の2問は、別紙の「『日本型食生活』について」をご覧ください。
問5. あなたは「日本型食生活」をご存じでしたか。(〇は1つ)



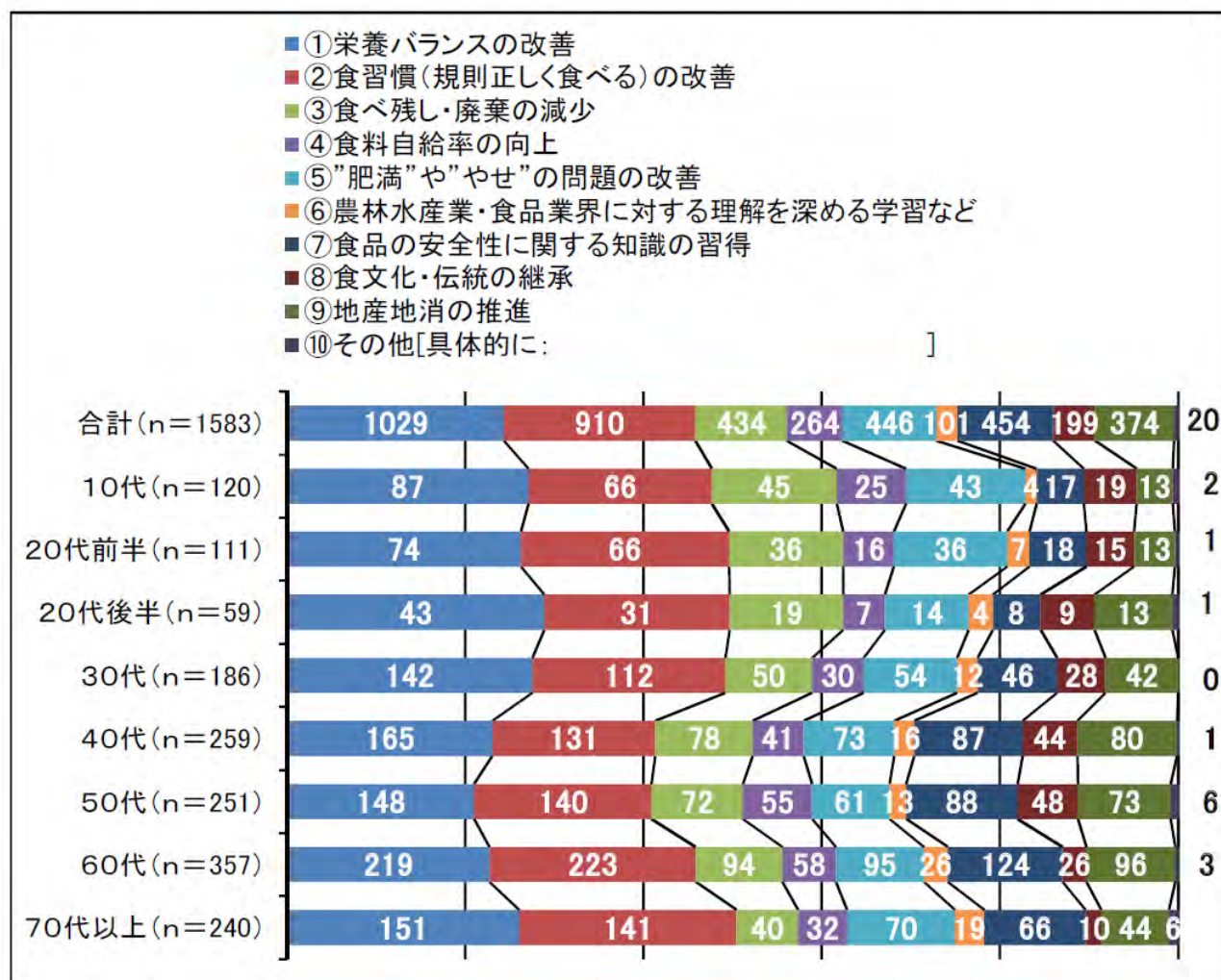
問6. あなたは「日本型食生活」を実践していますか。(〇は1つ)



問7. 「食育」とは、健康的な生活を送るために食に関する知識を育むことです。
あなたは「食育」について関心がありますか。(〇は1つ)



問8. あなたは「食育」について、どのような取り組みが大切だと思いますか。(〇は3つまで)



10代

意識をたかめること
畑に出て、作物栽培の体験をさせる。

20代前半

安くしてほしい、食費を

20代後半

生き物を食べることに、もっと感謝を意識させてほしい

40代

野菜やお肉などが、どのように生産・飼育されて、私達の食卓にのぼるのか、生産の苦勞を知ることが大切と思う。その上で、現在、経営的に成功している農業やその仕組みについて知り、考えることが大切だと思います。

50代

安全な食材が安く手に入ること。
家族揃って、会話しながら食べる(作る)こと
子供の食事に家庭だけでなく気をつける。日本全体で塩分の摂りすぎに取りくむ。農水省でイギリスのように塩分に気をつけて欲しい
旬の物を食べる
幼少期からの健康的食習慣継続の徹底。五感で食を感じる。
幼児期からの食卓を囲む生活環境

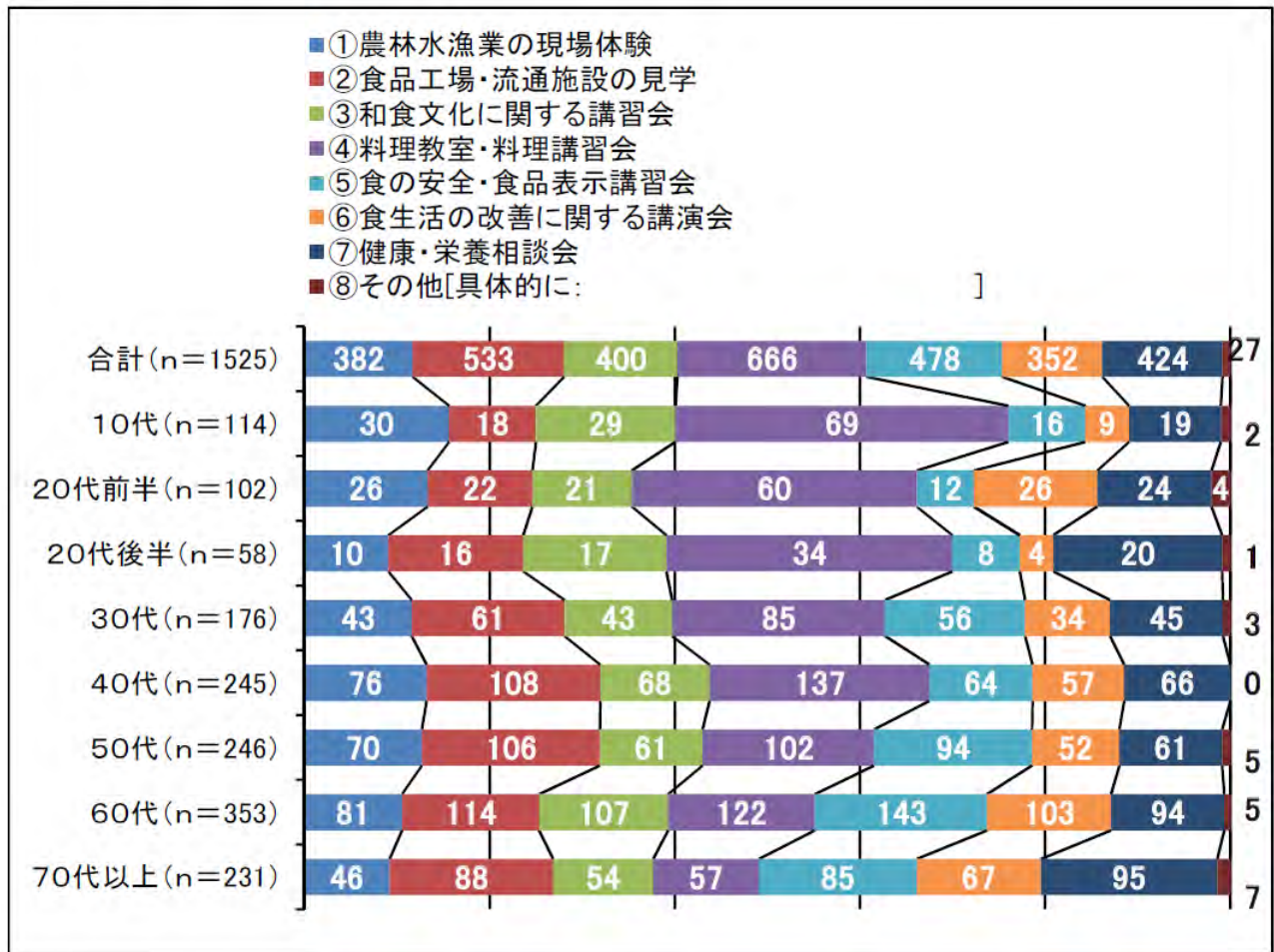
60代

小さい子供をもつ親の意識改善
糖尿病などの食生活が知りたいです

70代以上

食育について学校で教育してください。(給食を通して)栄養学習
食塩含有量の多い食品(隠れ食品・加工食品)。食品業界として減塩運動を推進して欲しい(メーカーから、食堂、販売店まですべてを含む)

問9.「食育」に関する様々な催しが行われていますが、あなたが参加したいと思う物がありますか。(〇はいくつでも)



～⑧その他～

10代
いいけんこうの会
試食会

20代前半
ダイエットについて
なし・・・他1名

20代後半
料理の試食会

30代
時間がない人がバランスの良い食生活をするための講習会
添加物についての講習会

50代
食改善推進委員をやっていますが、まだまだ勉強不足ですので、勉強したいと思います。
地域生産品の販売に伴う低農薬等、食の安全に関する取組の催し
特になし・・・他2名

60代
一流企業でも添加物が気になる
なし・・・他1名

70代以上
現在、喪中につき
特になし・・・他1名